

「音楽Ⅰ」シラバス

| | | | | | |
|----|----|----|-------------------|-----|------------------|
| 教科 | 科目 | 学年 | 組 | 単位数 | 教科書（出版社） |
| 芸術 | 音楽 | 1 | 音楽選択クラス （4クラス） | 2 | MOUSA （教育芸術社） |

【音楽Ⅰの目標】

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

【実施計画と学習内容】

| 学期 ／ 月 | 領域・分野 | 題材名 | 教材名 | 指導目標 | 主な学習活動 |
|---|-----------|---------------|---|--|---|
| 一 学 期 ／ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 | 表現(歌唱) | 声の魅力を生かして歌おう | ・校歌 ・ひまわりの約束 ・少年時代 | ・曲想を感じ取り、イメージをもって、声の音色や強弱、旋律の特徴などを生かして歌う。 ・声の響きを意識して歌えるようにする。 | ・曲想を、歌詞の言葉の意味、歌詞が表す情景や心情とかかわらせて感じ取る。 ・姿勢や身体の使い方、呼吸法等を音楽表現に結び付けながら歌う |
| | 表現(器楽) | リズムの重なりを楽しもう | ・Plymouth Roch | ・音符や休符の名前や長さについて理解させる ・リズム譜を読みながら実際にリズムを打てるようにする | ・音符や休符の名前や長さを理解する ・リズム打ちをする ・リズム譜を見ながら、リズムを打つ |
| | 表現(器楽) | キーボードに挑戦しよう | ・喜びの歌 | ・楽譜を読み、その音をキーボードで弾くことができる ・正しい手のかたちと指づかいで、キーボードを演奏することができる | ・五線譜の仕組みを学び、音名(イタリア語)を読む練習をする ・五線譜と鍵盤のつながりを学ぶ ・指番号と手のかたちを覚え、キーボードの練習をする |
| | 表現(歌唱)・鑑賞 | イタリア/ドイツ歌曲に挑戦 | ・Caro mio ben ・Heidenrölein (Schubert, Werner) | ・イタリア/ドイツ歌曲への興味・関心を深め、主体的に学習へ取り組む態度を養う ・イタリア/ドイツ歌曲にふさわしい発声法や表現方法を知る | ・イタリア/ドイツ歌曲の背景を学ぶ ・曲のリズム、歌詞、メロディーの一つ一つの要素を丁寧に譜読みする |
| | 鑑賞 | アジアの諸民族の音楽 | ・諸民族の楽器 | ・アジアの諸民族の音楽が、歴史や自然、風土に根ざしていることや、他の分野とかかわっていることを理解し、楽曲全体を味わうことができる | ・それぞれの音楽の背景を知る ・音楽における発声法や歌唱法、楽器の構造や奏法、音色などといった音楽の特徴を感じ取る |

| | | | | | |
|--|---------------|--------------------------------|---|--|---|
| 二 学 期 ／ 9 ・ 10 ・ 11 ・ 12 | 表現(歌唱) | ハーモニー を楽しもう | ・手紙 ・夏の思い出 | ・自分のパート以外の旋律を意識しながら表現 する技能を身につける | ・各パートそれぞれの旋律を歌う ・パートを決め分かれて練習する ・全員で合わせる |
| | 表現(創作)・鑑賞 | リズムから曲 をつくろう | ・ワークシート | ・言葉のリズムを感じ取り、創作に生かすことができ る | ・言葉のリズムを感じ取り、ボイスアンサンブルで 表現する ・言葉のリズムを感じ取り曲をつくる ・創作した作品を発表する。 |
| | 鑑賞 | 舞台芸術・ミ ュージカル の世界 | ・カルメン ・雨に唄えば | ・音楽的な要素と音楽外的な要素、総合的な芸 術表現におけるそれらのかかわり合いを感じ取 る ・表現の特徴と文化的・歴史的背景を理解する | ・オペラの歴史と日本及び世界のオペラ事情を 学ぶ ・ミュージカルの歴史を学ぶ ・オペラ、ミュージカルのなかでの音楽の効果を 感じ取る |
| | 表現(器楽) | 郷土の民謡 に親しもう | ・ABCの歌 ・安波節 | ・沖縄の歌を学び伝統を大切に育てる心 を育てる ・沖縄の音楽における楽器及びその奏法、記譜 法などを理解し、三線を演奏する | ・三線の基本的な奏法、記譜法を学び、 演奏する |
| 三 学 期 ／ 1 ・ 2 ・ 3 | 表現(歌唱・ 器楽) | クラシックギ ターに親し もう | ・喜びの歌 ・スワニー川 | ・ギター構造や音色や奏法の特徴を理解す る。 ・ギターの基本的な奏法を身に付ける。 | ・ギターの特徴を理解し、アポヤンド奏法を身に 付ける。 |
| | 表現(歌唱) | 日本の歌曲 を歌おう | ・この道 ・浜辺の歌 | ・曲想を感じ取り、歌詞、声の音色、歌とピアノ伴 奏とのかかわりなどを考え、楽曲にふさわしい表 現を工夫して、日本の歌曲を歌う | ・言葉の抑揚や意味、歌詞が表す情景や心情な どと旋律とのかかわりを考え、曲想にふさわしい 表現を工夫して歌う ・楽曲が生まれた背景を考え、イメージをもって 歌う |
| | 鑑賞 | オーケストラ の豊かな表 現力を味わ おう | ・交響曲 第9番 ニ短調「合唱付 き」 ・組曲「展覧会の 絵」 | 楽器の音色や、音楽の構造などの楽曲の特徴 を理解して鑑賞する | ・楽曲の特徴を理解するとともに、根拠をもって 批評し、よさや美しさを味わって鑑賞する ・音色、リズム、旋律、テクスチャなどの働きか ら音楽の構造と曲想とのかかわりを感じ取り理解 する |

★題材や教材、学習内容は、生徒の実態や状況に応じて、柔軟に変更する。

【学習形態】

基本的に一斉授業ですが、学習内容によってグループやペアでの学習を行います。

実技テストについても、課題に応じて個別テスト、グループ発表と、テスト方法が変わります。

【評価方法】

①授業への関心・意欲・態度、②ワークシート等の課題提出状況、③グループ活動への取り組み、④実技テストの結果を総合的に判断して評価します。